

イベント・刊行物一覧

地球研国際シンポジウム

	テーマ	開催日	場 所
第1回	水と人間生活	2006年11月 6日－ 8日	国立京都国際会館
第2回	緑のアジア —— その過去、現在、未来	2007年10月30日－31日	メルパルク京都
第3回	島の未来可能性 —— 固有性と脆弱性を越えて	2008年10月22日－23日	地球研講演室
第4回	境界のジレンマ —— 新しい流域概念の構築に向けて	2009年10月20日－22日	地球研講演室
第5回	多様性の過去と未来	2010年10月13日－15日	地球研講演室
第6回	人間社会の未来可能性	2011年10月26日－28日	地球研講演室
第7回	複雑化・単純化するアジア 生態系、ひとの健康と暮らし	2012年10月24日－26日	地球研講演室
第8回	環境変化とリスク	2013年10月23日－25日	地球研講演室
第9回	明日のメガシティ —— 都市と地球環境の未来可能性	2014年 6月25日－27日	地球研講演室

地球研フォーラム

場所：国立京都国際会館

	テーマ	開催日
第1回	地球環境学の課題 —— 統合理解への道	2002年 5月17日
第2回	地球温暖化 —— 自然と文化	2003年 6月13日
第3回	もし生き物が減っていくと —— 生物多様性をどう考える	2004年 7月10日
第4回	断ち切られる水	2005年 7月 9日
第5回	森は誰のものか？ —— 森と人間の共生を求めて	2006年 7月 8日
第6回	地球環境問題としての「食」	2007年 7月 7日
第7回	もうひとつの地球環境問題 —— 会うことのない人たちとともに	2008年 7月 5日
第8回	よく生きるための環境 —— エコヘルスをデザインする	2009年 7月 5日
第9回	私たちの暮らしのなかの生物多様性	2010年 7月10日
第10回	足もとの水を見つめなおす	2011年 7月 3日
第11回	“つながり”を創る	2012年 7月 8日
第12回	“共に創る”地球環境研究	2013年 6月29日
第13回	地球環境をどうデザインするか？	2014年 7月12日

地球研市民セミナー

	テーマ	開催日	講演者
第1回	シルクロード地域のロマンと現実	2004年11月 5日	中尾 正義 (地球研教授)
第2回	琵琶湖の水環境を守るには —— 琵琶湖流域での研究活動から	2004年12月 3日	谷内 茂雄 (地球研助教授) 中野 孝教 (地球研教授)
第3回	亜熱帯の島・西表の自然と暮らし	2005年 2月 4日	高相徳志郎 (地球研教授) ほか
第4回	21世紀をむかえた世界の水問題	2005年 3月 4日	鼎 信次郎 (地球研助教授)
第5回	地球温暖化、ホント？ ウソ？	2005年 4月 1日	早坂 忠裕 (地球研教授)
第6回	地球温暖化と地域の暮らし・環境 —— トルコの水と農から	2005年 6月 3日	渡邊 紹裕 (地球研教授) ほか
第7回	鴨川と黄河 —— その災いと恵み	2005年 9月 2日	福嵩 義宏 (地球研教授)
第8回	東南アジアの魚と食	2005年10月 7日	秋道 智彌 (地球研教授)
第9回	生き物の豊かな森は持続的な社会に必要である	2005年12月 2日	中静 透 (地球研教授)
第10回	環境の物語り論 —— 環境の質と環境意識	2006年 2月 3日	吉岡 崇仁 (地球研助教授)
第11回	アムール川・オホーツク海・知床 —— 巨大魚付林という考え	2006年 3月 3日	白岩 孝行 (地球研助教授)
第12回	モンスーンアジアからシルクロードへ —— ユーラシア環境史事始	2006年 4月14日	佐藤洋一郎 (地球研教授)
第13回	どうなる日本の自然？ どうなる日本の国土？	2006年 6月 9日	湯本 貴和 (地球研教授)
第14回	なぜインダス文明は崩壊したのか	2006年 9月22日	長田 俊樹 (地球研教授)
第15回	大地の下の“地球環境問題”	2006年10月20日	谷口 真人 (地球研助教授)
第16回	「景観」は生きている	2006年12月 1日	内山 純蔵 (地球研助教授)
第17回	病気もいろいろ —— 人の医者、環境の医者	2007年 3月 9日	川端善一郎 (地球研教授) 奥宮 清人 (地球研助教授)
第18回	シルクロード —— 人と自然のせめぎあい	2007年 4月20日	窪田 順平 (地球研准教授)
第19回	途上国農村のレジリエンスを考える	2007年 5月25日	梅津千恵子 (地球研准教授)
第20回	鎮守の森は原始の照葉樹林の生き残りか？	2007年 9月21日	小椋 純一 (京都精華大学教授) 湯本 貴和 (地球研教授)
第21回	京都の世界遺産 —— 上賀茂の杜からのメッセージ	2007年10月12日	村松 晃男 (上賀茂神社権禰宣) 秋道 智彌 (地球研副所長・教授)
第22回	生きものにとって自然の森だけが大切なのか？ —— 熱帯と温帯の里山	2007年11月 9日	阿部 健一 (京都大学地域研究統合情報センター准教授)
第23回	地域・地球の環境 —— 市民の役割・研究者の責任	2008年 2月15日	市川 昌広 (地球研准教授) 石田 紀郎 (京都学園大学教授) 渡邊 紹裕 (地球研教授)
第24回	黄河と華北平原の歴史	2008年 3月14日	木下 鉄矢 (地球研教授) 福嵩 義宏 (地球研教授)

	テーマ	開催日	講演者
第 25 回	マレーシア熱帯林とモンゴル草原の大自然と環境破壊	2008年 4月18日	酒井 章子 (地球研准教授) 藤田 昇 (京大大学生態学センター助教) 山村 則男 (地球研教授)
第 26 回	地球環境の変化と健康 ——人びとのライフスタイルを変えるには	2008年 5月16日	門司 和彦 (地球研教授) 奥宮 清人 (地球研准教授)
第 27 回	捕鯨論争 —— 21 世紀における人間と野生生物の関わりを考える	2008年 9月19日	星川 淳 (NPO 法人グリーンピース・ジャパン事務局長) 秋道 智彌 (地球研副所長・教授)
第 28 回	年輪年代学 —— 過去から未来へ	2008年10月17日	光谷 拓実 (地球研客員教授) 佐藤洋一郎 (地球研副所長・教授)
第 29 回	厳寒のシベリアに暮らす人々と温暖化	2008年11月21日	高倉 浩樹 (東北大学東北アジア研究センター准教授)
第 30 回	里山・里海から SATOYAMA SATOUMI へ	2009年 1月23日	あん・まくどなど (国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長) 阿部 健一 (地球研教授)
第 31 回	南極から地球環境がよく見える	2009年 3月13日	中尾 正義 (人間文化研究機構理事) 斎藤 清明 (地球研教授)
第 32 回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか？	2009年 4月17日	嶋田 義仁 (名古屋大学大学院文学研究科教授) 縄田 浩志 (地球研准教授)
第 33 回	世界の水、日本の水 —— 21 世紀の日本の役割	2009年 6月19日	竹村公太郎 (日本水フォーラム事務局長・財団法人リバーフロント整備センター理事長) 渡邊 紹裕 (地球研教授)
第 34 回	万物共存の哲学 —— 環境思想としての朱子学	2009年 9月11日	木下 鉄矢 (地球研教授)
第 35 回	中国の環境問題 —— 国際的民間協力の役割と可能性	2009年10月16日	高見 邦雄 (認定 NPO 法人緑の地球ネットワーク事務局長) 窪田 順平 (地球研准教授)
第 36 回	現代インドの経済発展と環境問題	2009年12月18日	ヴィカース・スフループ (駐大阪神戸インド総領事) 長田 俊樹 (地球研教授)
第 37 回	地球温暖化と水	2010年 2月16日	真鍋 淑郎 (プリンストン大学大気海洋研究プログラム上級研究員)
第 38 回	キョウト遺産 VS. シンヤ遺産 —— まちの力を未来につなげる	2010年 4月16日	中川 理 (京都工芸繊維大学教授) 村松 伸 (地球研教授)
第 39 回	ねんてんさんに訊く “俳句と環境問題”	2010年 6月18日	坪内 稔典 (佛教学教授)
第 40 回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか？ —— その 2	2010年 9月17日	鷹木 恵子 (桜美林大学教授) 石山 俊 (地球研プロジェクト研究員)
第 41 回	神話から学ぶ人間と自然とのありかた —— ボブ・サムさんによるストーリー・テリング	2010年11月30日	ボブ・サム(アラスカ・クリンギット族) 羽生 淳子 (地球研招へい研究員/カリフォルニア大学バークレー校准教授)
第 42 回	水俣に学ぶ —— 公害から地球環境問題へ	2011年 2月15日	原田 正純 (元熊本学園大学教授)
第 43 回	東日本大震災 —— 被災者主体の復興への道筋	2011年 5月19日	室崎 益輝 (関西学院大学災害復興制度研究所所長) 窪田 順平 (地球研准教授)
第 44 回	地球環境学へのいざない —— 研究の裏舞台	2011年 8月 5日	谷口 真人 (地球研教授) 渡邊三津子 (地球研プロジェクト研究員)
第 45 回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか？ —— その 3	2011年 9月 9日	大沼 洋康 (国際耕種株式会社代表取締役) 中西 昭雄 (中西木材株式会社代表取締役) 縄田 浩志 (地球研准教授) 石山 俊 (地球研プロジェクト研究員)
第 46 回	新しいインダス文明像を求めて	2012年 5月11日	前奈 英明 (広島大学教授) 長田 俊樹 (地球研教授)
第 47 回	東南アジアの環境破壊と食卓のゆくえ	2012年 6月22日	嘉田 良平 (地球研教授)
第 48 回	遠い世界に思いをはせる —— アフリカでの開発支援をめぐる	2013年 1月18日	田中 樹 (地球研准教授)
第 49 回	参加体験型セミナー 自分という自然を生きる	2013年 2月15日	中野 民夫 (ワークショップ企画プロデューサー・同志社大学教授)
第 50 回	持続可能な地域づくりを支える科学 —— 地域環境知プロジェクトがめざすもの	2013年 5月24日	佐藤 哲 (地球研教授)
第 51 回	農山村の人とくらし —— 獣害のようすとその対策	2013年 6月21日	矢尾田清幸 (地球研プロジェクト研究員)
第 52 回	水俣から MINAMATA へ —— 加害者は誰か	2013年 9月10日	ジュディ・デ・シルバ (グラスシーナローズ居留地事務所行政官(カナダ)) 花田 昌宣 (熊本学園大学水俣学研究センター長)
第 53 回	< アラブの春 > —— 地球環境から考える	2013年 9月20日	鷹木 恵子 (桜美林大学教授) 縄田 浩志 (地球研准教授)
第 54 回	沿岸環境と魚の話	2013年10月18日	石川 智士 (地球研准教授)
第 55 回	地球温暖化リスクと人類の選択	2013年12月11日	江守 正多 (国立環境研究所地球環境研究センター気候変動リスク評価研究室長)
第 56 回	獺師さんに聞く —— 京都の山と動物のこと	2014年 2月21日	千松 信也 (獺師)

	テーマ	開催日	講演者
第57回	マータイさんにきてみよう「平和」と「環境」のこと	2014年 2月23日	ワンジラ・マータイ (ワンガリ・マータイ平和と環境学研究所理事)
第58回	平家は騒いでいたから減んだのか? ——樹木年輪からの解答	2014年 7月18日	中塚 武 (地球研教授)
第59回	より深く珈琲とチョコレートを味わうために ——生産地と消費地をつなぐ	2014年 9月19日	吉野 慶一 (Dari K 株式会社代表取締役)
第60回	花街のおかあさんに聞く ——環境問題と京の衣食住	2014年10月17日	今井貴美子 (上七軒「大文字」女将)
第61回	高校生とともに考える「京・街・環境」	2015年 2月12日	京都府立洛北高校生

地球研地域連携セミナー

	テーマ	開催日	場 所
第1回	雪と人 ——くらしをささげる日本海	2005年 9月17日	富山県富山市
第2回	火山と水と食 ——鹿児島を語る!	2006年 9月18日	鹿児島県鹿児島市
第3回	伊豆の、花と海。 ——伊東から考える地球環境	2007年 9月15日	静岡県伊東市
第4回	災害と「しのぎの技」 ——池島・福万寺遺跡が語る農業と環境の関係史	2008年11月 8日	大阪府和泉市
第5回	やんばるに生きる ——自然・文化・景観のゆたかさを育む地域と観光	2009年 2月13日 2009年 2月14日	沖縄県名護市 沖縄県国頭村
第6回	山・ひと・自然 ——厳しい自然を豊かに生きる	2009年11月28日	長野県松本市
第7回	にほんの里から世界の里へ	2010年 2月 6日	石川県金沢市
第8回	多様性の伝えかた ——子どもたちのための自然と文化	2010年10月10日	愛知県名古屋市
第9回	ユーラシアへのまなざし ——ソ連崩壊 20年後の環境問題	2011年 6月12日	北海道札幌市
第10回	水辺の保全と琵琶湖の未来可能性	2012年 1月14日	滋賀県大津市
第11回	東アジアの「環境」安全保障 ——風上・風下論を超えて	2012年 6月10日	福岡県福岡市
第12回	分かちあう豊かさ ——地域のなかのcommons	2012年10月13日	山梨県富士吉田市
第13回	地球の未来・地域の知力 ——環境問題の解決に向けて	2014年 2月11日	鳥取県鳥取市
第14回	地域の未来可能性 ——農村に生きることの豊かさ	2015年 2月15日	大分県宇佐市

地球研東京セミナー

	テーマ	開催日	場 所
第1回	人・水・地球 ——未来への提言	2009年10月 9日	霞山会館
第2回	(人間文化研究機構第13回公開講演会・シンポジウム) 食 ——生物多様性と文化多様性の接点	2010年 7月16日	有楽町朝日ホール
第3回	(人間文化研究機構第17回公開講演会・シンポジウム) 遠い森林、近い森 ——関係性を問う	2011年10月 7日	国立京都国際会館
第4回	(人間文化研究機構第20回公開講演会・シンポジウム) commons ——豊かさのために分かちあう	2013年 1月25日	有楽町朝日ホール
第5回	都市は地球の友達か!? ——地球環境とメガシティの過去・現在・未来	2014年 1月24日	有楽町朝日ホール
第6回	環境問題は昔からあった ——過去から見える未来	2015年 1月16日	有楽町朝日ホール

地球研キッズセミナー

	テーマ	開催日	講演者
第1回	恐竜はいきている! カエルは人間のご先祖さま? 絶滅した生き物とわたしたち	2010年 8月23日	富田 京一 (肉食爬虫類研究所代表) 縄田 浩志 (地球研准教授)
第2回	熱帯雨林の不思議な生き物たち	2011年 8月 5日	湯本 貴和 (地球研教授)
第3回	「アルペド」って何だろう?	2012年 8月 3日	檜山 哲哉 (地球研准教授)
第4回	田んぼの土のひみつ	2013年 8月 2日	橋本 (渡部) 慧子 (地球研プロジェクト研究員)
第5回	木の年輪からさぐるむかしの環境	2014年 8月 1日	佐野 雅規 (地球研プロジェクト上級研究員)

地球研オープンハウス

	開催日	場 所
2011年度 地球研オープンハウス	2011年 8月 5日	地球研
2012年度 地球研オープンハウス	2012年 8月 3日	地球研
2013年度 地球研オープンハウス	2013年 8月 2日	地球研
2014年度 地球研オープンハウス	2014年 8月 1日	地球研

KYOTO 地球環境の殿堂

	殿堂入り者	称号・職位など	業 績
第1回	グロ・ハルレム・ブルントラント 氏	元ノルウェー首相	「持続可能な開発」概念を世界に提唱
	真鍋 淑郎 氏	プリンストン大学上級研究員	気候変動を新たなモデルで分析し、地球科学分野で活躍
	ワンガリ・マータイ 氏	2004年ノーベル平和賞受賞者	「もったいない」を環境のキーワードとして世界に広める
第2回	シグミ・シンゲ・ワンチュク陛下	ブータン王国第4代国王	「国民総幸福度」(GNH: Gross National Happiness) の概念を提唱
	原田 正純 氏	元熊本学園大学教授	水俣病をはじめとした公害問題の社会医学的な研究
	エリノア・オストロム 氏	2009年ノーベル経済学賞受賞者	commons (共有資源) の理論的・実証的な研究
第3回	クラウス・テブファー 氏	先端的持続可能性研究所所長	UNEP (国連環境計画) の事務局長として、地球環境保全の具体的な施策を推進
	レスター・R・ブラウン 氏	アースポリシー研究所所長	エネルギーや人口・食料問題などに警鐘を鳴らし、地球環境問題の思想を普及

第4回	ヴァンダナ・シヴァ氏	環境哲学者・物理学者	伝統的スタイルに根ざした価値観や社会構成の重要性など、環境と共生する思想を普及
	エイモリー・B・ロビンス氏	ロッキーマウンテン研究所理事長	エネルギー利用に関する学術研究の成果をもとにした先進的な戦略「ソフトエネルギー・パス」を提唱
第5回	宮脇 昭氏	公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター長	土地に在来種の樹木を密集させて植え込み、植物がもつ競争力を生かしながら緑を増やす植樹方法「宮脇方式」を提唱
第6回	畠山 重篤氏	NPO 法人「森は海の恋人」理事長	20年以上にわたり漁民による広葉樹の植林活動を続けるなど、森林の育成や林業の健全な発展に貢献

日文研・地球研合同シンポジウム

	テーマ	開催日	場 所
第1回	山川草木の思想 ―― 地球環境問題を日本文化から考える	2008年 6月21日	シルクホール
第2回	京都の文化と環境 ―― 水と暮らし	2009年 5月 9日	日文研講堂
第3回	京都の文化と環境 ―― 森や林	2010年 5月22日	日文研講堂
第4回	環境問題はなぜ大事か ―― 文化から見た環境と環境から見た文化	2011年 5月21日	日文研講堂
第5回	文化・環境は誰のもの？	2012年 9月14日	日文研講堂

既刊刊行物

地球研叢書

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
生物多様性はなぜ大切か？	日高 敏隆 編	昭和堂	2005年 4月
中国の環境政策 生態移民——緑の大地、内モンゴルの砂漠化を防げるか？	小長谷有紀、シンジルト、中尾 正義 編	昭和堂	2005年 7月
シルクロードの水と緑はどこへ消えたか？	日高 敏隆、中尾 正義 編	昭和堂	2006年 3月
森はだれのものか？——アジアの森と人の未来	日高 敏隆、秋道 智彌 編	昭和堂	2007年 3月
黄河断流——中国巨大大河川をめぐる水と環境問題	福嶋 義宏 著	昭和堂	2008年 1月
地球の処方箋——環境問題の根源に迫る	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2008年 3月
食卓から地球環境がみえる——食と農の持続可能性	湯本 貴和 編	昭和堂	2008年 3月
地球温暖化と農業——地域の食料生産はどうなるのか？	渡邊 紹裕 編	昭和堂	2008年 3月
水と人の未来可能性——しのびよる水危機	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2009年 3月
モノの越境と地球環境問題——グローバル化時代の〈知産知消〉	窪田 順平 編	昭和堂	2009年10月
安定同位体というメガネ——人と環境のつながりを診る	和田英太郎、神松 幸弘 編	昭和堂	2010年 3月
魚附林の地球環境学——親潮・オホーツク海を育むアムール川	白岩 孝行 著	昭和堂	2011年 3月
生物多様性 どう生かすか——保全・利用・分配を考える	山村 則男 編	昭和堂	2011年10月
食と農の未来——ユーラシア一万年の旅	佐藤洋一郎 著	昭和堂	2012年 3月
生物多様性 子どもたちにどう伝えるか？	阿部 健一 編	昭和堂	2012年10月
ポスト石油時代の人づくり・モノづくり——日本と産油国の未来像を求めて	石山 俊、縄田 浩志 編	昭和堂	2013年 3月
食と農のサバイバル戦略	嘉田 良平 著	昭和堂	2014年 3月
五感／五環——文化が生まれるとき	阿部 健一 監修	昭和堂	2015年 3月
人は火山に何を見るのか——環境と記憶／歴史	寺田 匡宏 著	昭和堂	2015年 3月

地球研和文学術叢書

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
環境人間学と地域 インダス——南アジア基層世界を探る	長田 俊樹 編著	京都大学学術出版会	2013年10月
環境人間学と地域 モンゴル——草原生態系ネットワークの崩壊と再生	藤田 昇、加藤 聡史、 草野 栄一、幸田 良介 編著	京都大学学術出版会	2013年10月
環境人間学と地域 シベリア——温暖化する極北の水環境と社会	檜山 哲哉、藤原 潤子 編著	京都大学学術出版会	2015年 3月

地球研英文叢書

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
Island Futures	BALDACCHINO, Godfrey・NILES, Daniel 編	Springer	2011年 7月
The Dilemma of Boundaries	谷口 真人、白岩 孝行 編	Springer	2012年 5月
Groundwater as a Key for Adaptation to Changing Climate and Society	谷口 真人、檜山 哲哉 編	Springer	2014年 7月
Social-Ecological Systems in Transition	酒井 章子、梅津千恵子 編	Springer	2014年 8月

地球研ライブラリー

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
クスノキと日本人——知られざる古代巨樹信仰	佐藤洋一郎 著	八坂書房	2004年10月
世界遺産をシカが喰う——シカと森の生態学	湯本 貴和、松田 裕之 編	文一総合出版	2006年 3月
ヒマラヤと地球温暖化——消えゆく氷河	中尾 正義 編	昭和堂	2007年 3月
Indus Civilization: Text and Context	長田 俊樹 編	Manohar	2007年 3月
人はなぜ花を愛でるのか	日高 敏隆、白幡洋三郎 編	八坂書房	2007年 3月
農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド 著 長田 俊樹、佐藤洋一郎 監訳	京都大学学術出版会	2008年 7月
モンスーン農耕圏の人びとと植物（ユーラシア農耕史1）	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2008年12月
日本人と米（ユーラシア農耕史2）	佐藤洋一郎 監修 木村 栄美 編	臨川書店	2009年 3月
砂漠・牧場の農耕と風土（ユーラシア農耕史3）	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2009年 6月
Indus Civilization: Text and Context Vol.2	長田 俊樹 編	Manohar	2009年 9月
Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia	長田 俊樹 編	Manohar	2009年 9月
さまざまな栽培植物と農耕文化（ユーラシア農耕史4）	佐藤洋一郎 監修 木村 栄美 編	臨川書店	2009年10月
農耕の変遷と環境問題（ユーラシア農耕史5）	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2010年 1月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 1	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 2	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 3	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 4	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 5	DANGI, Vivek 著	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 6	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 7	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 8 Part 1	LAW, Randall William 著	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 8 Part 2	LAW, Randall William 著	Manohar	2011年 7月
焼畑の環境学——いま焼畑とは	佐藤洋一郎 監修 原田 信男、鞍田 崇 編	思文閣出版	2011年 9月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 9	長田 俊樹、遠藤 仁 編	Manohar	2012年 2月
石油時代・中東における樹木資源の利用と保全（「アラブなりわいモノグラフ」シリーズ 第1巻）	縄田 浩志、石山 俊、 中村 亮 著	松香堂書店	2013年 1月
乾燥地のマングローブ——研究と保全のフロンティア（「アラブなりわいモノグラフ」シリーズ 第2巻）	縄田 浩志 編	松香堂書店	2013年 2月
危機言語——言語の消滅でわれわれは何を失うのか	EVANS, Nicholas 著	京都大学学術出版会	2013年 2月

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
ナツメヤシ (アラブのなりわい生態系 第2巻)	石山 俊、縄田 浩志 編	臨川書店	2013年12月
マングローブ (アラブのなりわい生態系 第3巻)	中村 亮、縄田 浩志 編	臨川書店	2013年12月
外来植物メスキート (アラブのなりわい生態系 第4巻)	星野 弘方、縄田 浩志 編	臨川書店	2013年12月

その他

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
地球環境学事典	総合地球環境学研究所 編	弘文堂	2010年10月
地球環境学マニュアル1——共同研究のすすめ	総合地球環境学研究所 編	朝倉書店	2014年 1月
地球環境学マニュアル2——はかる・みせる・読みとく	総合地球環境学研究所 編	朝倉書店	2014年 1月

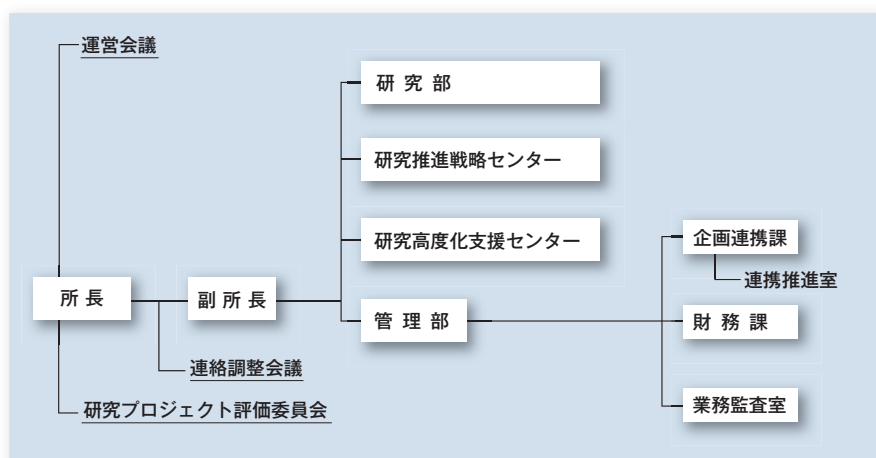
組織

■ 沿革

- | | |
|-----------------|---|
| 1995
(平成7年) | 4月 ● 「地球環境科学の推進について」(学術審議会建議)
「地球環境問題の解決を目指す総合的な共同研究を推進する中核的研究機関を設立することを検討する必要がある。」 |
| | 10月 ● 「地球環境科学の中核的研究機関に関する調査研究会」を設置 |
| 1997
(平成9年) | 3月 ● 「地球環境科学に関する中核的研究機関のあり方に関する研究報告書」(地球環境科学の中核的研究機関に関する調査研究会) |
| | 6月 ● 「地球環境保全に関する当面の取組」(地球環境保全に関する関係閣僚会議)
「幅広い学問分野の研究者が地球環境問題について、総合的に研究を行うことができるよう、地球環境科学の研究組織体制の整備に関する調査研究を行う。」 |
| | 7月 ● 文部省が「地球環境科学の研究組織体制のあり方に関する調査協力者会議」を設置 |
| 1998
(平成10年) | 4月 ● 地球環境科学研究所(仮称)の準備調査を開始 |
| 2000
(平成12年) | 3月 ● 地球環境科学研究所(仮称)準備調査委員会、人文・社会科学から自然科学にわたる学問分野を総合化し、国内外の大学、研究機関とネットワークを結び、総合的な研究プロジェクトを推進するための「総合地球環境学研究所(仮称)」の創設を提言 |
| | 4月 ● 総合地球環境学研究所(仮称)創設調査室を設置するとともに創設調査機関に創設調査委員会を設置 |
| 2001
(平成13年) | 2月 ● 「総合地球環境学研究所(仮称)の構想について」(最終報告)(創設調査委員会) |
| | 4月 ● 総合地球環境学研究所の創設
国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(平成13年政令第151号)の施行にともない、総合地球環境学研究所を創設し、京都大学構内において研究活動を開始。初代所長に日高敏隆が就任 |
| 2002
(平成14年) | 4月 ● 旧京都市立春日小学校(京都市上京区)へ移転 |
| 2004
(平成16年) | 4月 ● 大学共同利用機関の法人化にともない、「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構」に所属 |
| 2005
(平成17年) | 12月 ● 新施設(京都市北区上賀茂本山)竣工 |
| 2006
(平成18年) | 2月 ● 旧春日小学校より新施設(京都市北区上賀茂本山)へ移転 |
| | 5月 ● 総合地球環境学研究所施設竣工記念式典を実施 |
| 2007
(平成19年) | 4月 ● 立本成文が第二代所長に就任 |
| | 5月 ● 副所長を設置 |
| | 10月 ● 研究推進センターを研究推進戦略センターに改組 |
| 2011
(平成23年) | 4月 ● 創立10周年記念シンポジウムを開催 |
| 2013
(平成25年) | 4月 ● 安成哲三が第三代所長に就任 |
| | 4月 ● 研究推進戦略センターを研究推進戦略センターと研究高度化支援センターに改組 |
| 2014
(平成26年) | 7月 ● 地球研が Future Earth のアジア地域拠点 / 事務局に選定 |

旧春日小学校時代の地球研(2002年4月～2006年1月)

■ 組織図



■ 財務セグメント情報 (2013年度)

業務費用		業務収益	
種別	金額 (千円)	種別	金額 (千円)
業務費	2,008,747	運営費交付金収益	1,966,639
共同利用・共同研究経費	1,079,796	受託研究等収益	45,102
教育研究支援経費	101,480	受託事業等収益	1,082
受託研究費	45,145	寄附金収益	8,087
受託事業費	1,082	その他	168,329
人件費	781,242		
一般管理費	142,340		
財務費用	36,203		
費用計	2,187,291	収益計	2,189,241
業務損益			1,949

■ 外部資金等受入額 (2013年度)

区分	件数	金額 (千円)
受託研究費	10 件	42,767
寄附金	11 件	15,679
科学研究費	27 件	95,680
基盤研究 (A)	5 件	63,440
基盤研究 (B)	1 件	1,950
基盤研究 (C)	5 件	7,800
挑戦的萌芽研究	5 件	8,060
若手研究 (B)	9 件	11,700
研究活動スタート支援	1 件	1,430
特別研究員奨励費	1 件	1,300

■ 運営組織と役割

■ 運営会議 研究所の人事、事業計画、その他管理運営に関する重要事項について審議します。

(所外委員)

池谷 和信 国立民族学博物館民族文化研究部教授
大槻 恭一 九州大学大学院農学研究院教授
神沢 博 名古屋大学大学院環境学研究科教授
河野 泰之 京都大学東南アジア研究所所長
杉原 薫 政策研究大学院大学教授
野家 啓一 東北大学教養教育院総長特命教授
藤岡 一郎 京都産業大学名誉教授
鷺谷いつみ 中央大学理工学部人間総合理工学教授

(所内委員)

窪田 順平 総合地球環境学研究所副所長・研究推進戦略センター長
佐藤 哲 総合地球環境学研究所プログラム主幹
谷口 真人 総合地球環境学研究所プログラム主幹
中塚 武 総合地球環境学研究所プログラム主幹
中野 孝教 総合地球環境学研究所研究高度化支援センター長
羽生 淳子 総合地球環境学研究所プログラム主幹
MALLEE, Hein 総合地球環境学研究所プログラム主幹

■ 研究プロジェクト評価委員会 研究所の研究プロジェクトに関し、必要な事項を専門的に調査審議します。

(国内委員)

小池 勲夫 東京大学名誉教授 (前琉球大学監事)
小池 俊雄 東京大学大学院工学系研究科教授
中西 久枝 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授
中村 雅美 科学・技術ジャーナリスト
 (前江戸川大学情報化学科教授)
宮崎 恒二 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
森岡 正博 大阪府立大学人間社会学部人間科学科教授
安岡 善文 東京大学名誉教授
和田英太郎 京都大学名誉教授
 総合地球環境学研究所名誉教授

(海外委員)

CHEN, Deliang
 Professor, Department of Earth Sciences, University of Gothenburg, SWEDEN
CHUN, Kyung-soo
 Professor, Department of Anthropology, Seoul National University, KOREA
KLEPPER, Gernot
 Professor, Kiel Institute for the World Economy, GERMANY
LAURANCE, William F.
 Distinguished Research Professor and Australian Laureate, James Cook University, AUSTRALIA
MCDONALD, Anne
 Professor, Graduate School of Global Environmental Studies, Sophia University, JAPAN
RANDALL, Roland
 Life Fellow, Girton College, University of Cambridge, UK
SCHOLZ, Roland
 Professor Emeritus, Institute for Environmental Decisions, Swiss Federal Institute of Technology Zurich, SWITZERLAND
VAN DER LEEUW, Sander
 Foundation Professor, School of Sustainability, Arizona State University, USA

■ 連絡調整会議 研究所の円滑な運営を図るため、研究所の管理運営に関する重要事項を審議します。

安成 哲三 所長	中塚 武 プログラム主幹	石井 励一郎 連携推進部門長
窪田 順平 副所長・研究推進戦略センター長	羽生 淳子 プログラム主幹	関野 樹 情報基盤部門長
佐藤 哲 プログラム主幹	MALLEE, Hein プログラム主幹	陀安 一郎 計測・分析部門長
谷口 真人 プログラム主幹・組織点検・戦略策定部門長・Future Earth推進室長	中野 孝教 研究高度化支援センター長	河野 浩 管理部長
	阿部 健一 コミュニケーション部門長	

■ 顧問

立本 成文

■ 名誉教授 (称号授与年月日)

中西 正己 (2003年4月1日)	福嶌 義宏 (2008年4月1日)	立本 成文 (2013年4月1日)
和田英太郎 (2004年8月1日)	秋道 智彌 (2012年4月1日)	佐藤洋一郎 (2013年10月1日)
日高 敏隆 (2007年4月1日)(故人)	川端善一郎 (2012年4月1日)	門司 和彦 (2013年10月1日)
中尾 正義 (2008年4月1日)	長田 俊樹 (2012年10月1日)	嘉田 良平 (2014年4月1日)

■ 所員

■ 所長 **安成 哲三**

■ 副所長 **窪田 順平** (企画調整担当) (併任)

管理部 ■ 部長 **河野 浩**

■ 企画連携課

課長	平石 憲良
課長補佐	泉森 嘉宏 (併任)
総務企画係 係長	ビウォーネ純子 (併任)
主任	藤川 剛
係員	苅谷 翠
人事係 主任	田中 美佳
係員	田中奈保子
係員	中大路 悠
研究企画係 係長	成井 明德
係員	小木曾彩菜

国際交流係 係長	ビウォーネ純子
主任	鏡塚 理恵
主任	藤川 剛 (併任)
連携推進室 室長	泉森 嘉宏
共同利用係 係員	永田 智子
係員	増田 真帆
広報係 係長	泉森 嘉宏 (併任)
係員	井上 裕子

■ 財務課

課長	吉田 隆
課長補佐	寺澤 邦裕
	専門職員 上垣 泰浩
財務企画係 係長	宮内 照明
係員	辻村はな子
施設管理係 係長	梅上 竜志
経理調達係 係長	浴田富美代
係員	澤村 貴弘

■ 業務監査室

室長	吉田 隆 (併任)
監査係 係長	山本 浩司

研究部

<p>■プログラム主幹</p> <p>佐藤 哲 (併任) 谷口 真人 (併任) 中塚 武 (併任) 羽生 淳子 (併任) MALLEE, Hein (併任)</p> <p>■教授</p> <p>窪田 順平 (兼務) 佐藤 哲 (地球環境学・保全生態学) 谷口 真人 (水文学) 中塚 武 (生物地球化学・古気候学) 羽生 淳子 (環境考古学)</p> <p>■准教授</p> <p>石川 智士 (保全生態学・国際水産開発学) 遠藤 愛子 (水産経済学・海洋政策学) 奥田 昇 (生態科学) 菊地 直樹 (環境社会学) 田中 樹 (境界農学) RAMPISELA, Dorotea (土壌水文学)</p> <p>■客員教授</p> <p>蟹江 憲史 (地球システムガバナンス) 金子 信博 (土壌生態学) 草郷 孝好 (実践的開発研究) 仲上 健一 (環境経済・政策学) 縄田 浩志 (文化人類学) 氷見山幸夫 (地理学) 檜山 哲哉 (生態水文学) 舟川 晋也 (環境農学) 松井 健 (文化としての自然)</p>	<p>村松 伸 (建築史・都市史) 米本 昌平 (科学史・科学論)</p> <p>■客員准教授</p> <p>内山 純蔵 (環境考古学・景観論) 奥宮 清人 (フィールド医学) 梶谷 真司 (哲学) 白岩 孝行 (雪水学) 寺田 匡宏 (歴史学・博物館人類学) 内藤 大輔 (東南アジア地域研究・ポリティカルエコロジー)</p> <p>■プロジェクト上級研究員</p> <p>C-09 小寺 昭彦 (農業環境情報学) H-05 佐野 雅規 (古気候学)</p> <p>■プロジェクト研究員</p> <p>C-09 關野 伸之 (環境社会学) C-09 橋本 (渡部) 慧子 (地域環境科学) D-05 岡本 侑樹 (システム農学) D-05 渡辺 一生 (地域研究) D-06 石田 卓也 (森林環境学) D-06 小林 由紀 (環境微生物学) R-07 石山 俊 (文化人類学) R-07 遠藤 仁 (考古学) R-07 清水 貴夫 (文化人類学) R-07 手代木功基 (地理学) R-07 宮崎 英寿 (境界農学) R-08 王 智弘 (資源論) R-08 増原 直樹 (行政学・エネルギー政策) R-08 山田 誠 (水文学) R-09 安達 香織 (考古学・文化財学) R-09 大石 高典 (生態人類学)</p>	<p>R-09 砂野 唯 (生態人類学) H-05 伊藤 啓介 (日本史) H-05 鎌谷かおる (歴史学・日本史) H-05 許 晨曦 (古気候学) E-05 大元 鈴子 (環境認証社会学) E-05 北村 健二 (環境学) E-05 竹村 紫苑 (景観生態学) E-05 三木 弘史 (統計物理学)</p> <p>■プロジェクト研究推進支援員</p> <p>C-09 加藤 久明 (環境政策・経営組織論) C-09 小山 雅美 D-05 柿岡 諒 (魚類進化生態学) D-05 本間 咲来 D-05 武藤 望生 (魚類進化化学・体系学) D-06 上原 佳敏 (生態学) D-06 廣瀬 幹子 R-07 紀平 朋 R-08 岡本 高子 R-08 寺本 瞬 R-08 本田 尚美 (沿岸海洋学) R-09 加藤早稲子 R-09 小林 優子 R-09 竹原 麻里 R-09 富井 典子 H-05 内田梨恵子 H-05 山本 真美 H-05 李 貞 (地球環境科学) E-05 KITOLELEI, Jokim Veu (水産資源管理学) E-05 福嶋 敦子</p>
---	--	---

研究推進戦略センター ■センター長 窪田 順平 (併任)

<p>■部門長</p> <p>基幹研究ハブ部門長 窪田 順平 (併任) 連携推進部門長 石井 勲一郎 (併任) 組織点検・戦略策定部門長 谷口 真人 (併任) Future Earth推進室長 谷口 真人 (併任)</p> <p>■教授</p> <p>窪田 順平 (森林水文学) MALLEE, Hein (社会科学)</p> <p>■准教授</p> <p>石井 勲一郎 (理論生態学)</p> <p>■助教</p> <p>大西 有子 (生物地理学・マクロ生態学)</p>	<p>■特任准教授</p> <p>高木 映 (水産学・分子生態学) 半藤 逸樹 (地球システム科学・数理モデリング)</p> <p>■特任助教</p> <p>MCGREEVY, Steven R. (環境社会学・里山学)</p> <p>■地域研究推進センター研究員／中国環境問題研究拠点研究員</p> <p>蔣 宏偉 (人類生態学)</p> <p>■センター研究推進支援員</p> <p>岡 昌美 西村 武司</p>
--	--

研究高度化支援センター ■センター長 中野 孝教 (併任)

<p>■部門長</p> <p>計測・分析部門長 陀安 一郎 (併任) 情報基盤部門長 関野 樹 (併任) コミュニケーション部門長 阿部 健一 (併任)</p> <p>■教授</p> <p>阿部 健一 (相関地域学) 陀安 一郎 (同位体生態学・同位体環境学) 中野 孝教 (同位体地球環境学)</p> <p>■准教授</p> <p>近藤 康久 (考古学・地理情報学) 関野 樹 (情報学) NILES, Daniel Ely (地理学)</p> <p>■助教</p> <p>熊澤 輝一 (環境計画論・地域情報学)</p>	<p>申 基澈 (岩石学・地球化学・同位体地質学) 安富奈津子 (気象・気候学)</p> <p>■特任助教</p> <p>武島 弘彦 (分子生態学・進化遺伝学・水産学)</p> <p>■センター研究員</p> <p>加藤 義和 (水域生態学) 由水 千景 (生物地球化学)</p> <p>■センター研究推進支援員</p> <p>長田 穰 (生態学) 松林 順 (安定同位体生態学) MARES, Emmanuel Bernard (日本庭園史)</p> <p>■客員教授</p> <p>秋道 智彌 (生態人類学)</p>
---	--

施設の紹介

地球研では、既存の学問分野の枠組みを超えた総合地球環境学の構築をめざしています。そのために、研究スタッフが研究室の枠組みにとらわれず議論し、互いに切磋琢磨できる環境を整備することが重要であると考えています。この発想は建物設計にも反映され、研究室ごとに壁を設けず、各研究プロジェクトの独自性を保ちつつも共同研究を可能にするような造りとなっています。

地球研は京都市北区上賀茂に位置しています。この地域が風致地区に該当することもあり、外観には瓦葺きを取り入れ、施工前よりあった樹木を生かすなど周辺の景観に馴染む工夫がされています。また、自然光の採光や断熱性を高めるなど省エネのための配慮がなされています。

■施設の概要

敷地面積 31,401m²

建築面積 6,257m² (本館：5,610m²、地球研ハウス：647m²)

延べ面積 12,887m² (本館：11,927m²、地球研ハウス：960m²)

構造 本館：RC造一部S造、地球研ハウス：RC造

階数 本館：地下1階 地上2階、地球研ハウス：地下1階 地上2階

2階 外来レベル

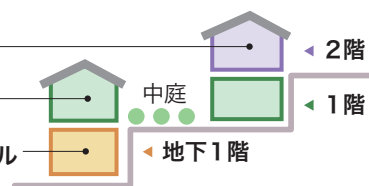
エントランスホール
展示ロビー
講演室
管理部事務室
セミナー室
ダイニングホールなど

1階 研究レベル

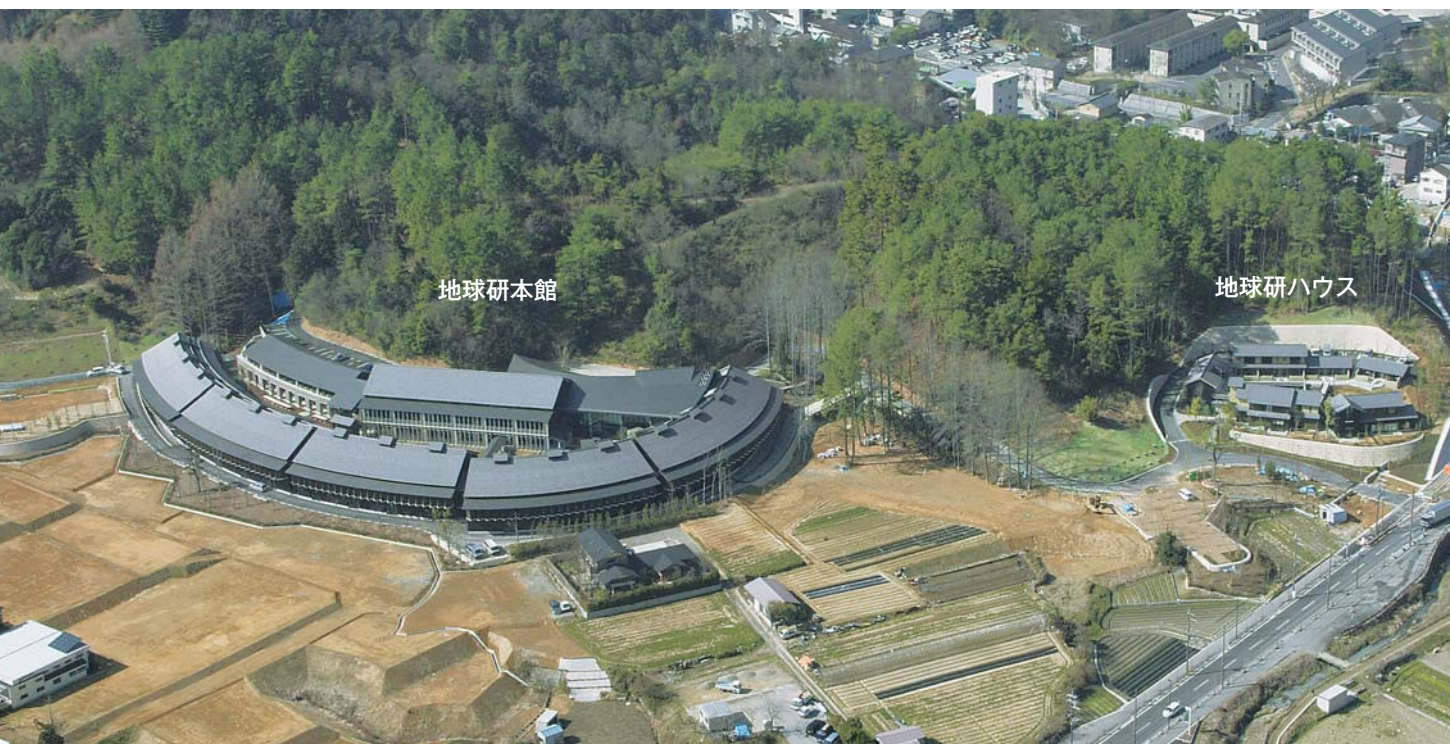
プロジェクト研究室
研究推進戦略センター
研究高度化支援センター
情報処理室
図書室
人間文化研究機構関西連絡所

地下1階 実験レベル

実験室
書庫
設備室など



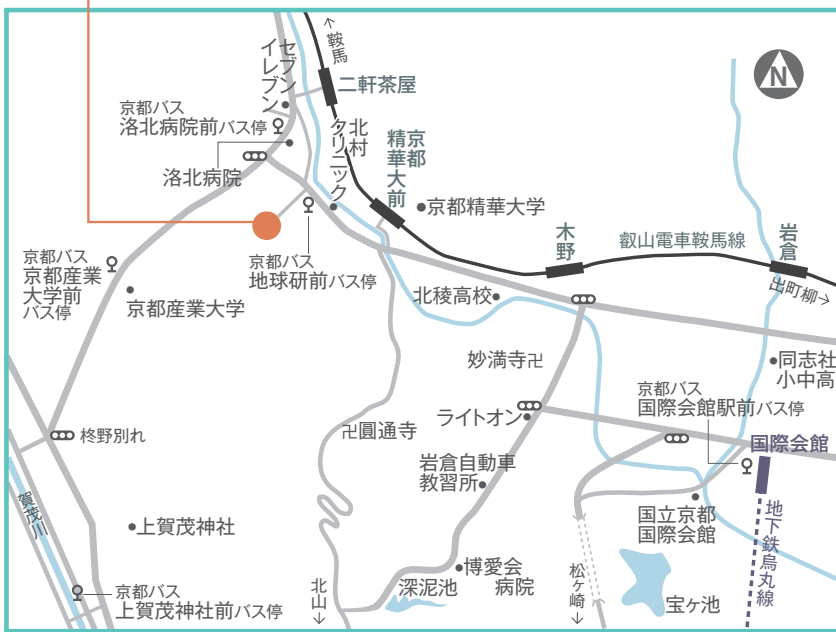
地球研本館と地球研ハウス





交通案内




大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所



地球研正門前に標識があります





公共交通機関でお越しください

-  地下鉄烏丸線
京都駅→(20分)→国際会館駅→京都バス40系統「京都産業大学ゆき」または50系統「市原ゆき」または52系統「市原經由貴船口・鞍馬・鞍馬温泉ゆき」(6分)→「地球研前」バス停下車すぐ
-  京阪沿線
出町柳駅→叡山電車鞍馬線(17分)→京都精華大前駅→(徒歩10分)→地球研
-  上賀茂方面より
・京都バス32系統、34系統、35系統に乗り、「洛北病院前」バス停下車徒歩10分
・もしくは、上記に乗り「京都産業大学前」バス停下車後、京都バス40系統「国際会館駅ゆき」に乗り換え、「地球研前」バス停下車すぐ





大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
TEL. 075-707-2100(代) FAX. 075-707-2106
<http://www.chikyu.ac.jp> 地球研 検索  

ISSN 2185-8047
発行 2015年4月

ちきゅうけん

